

CFRCでは、NPに関心を持たれた方への「NPプログラム入門講座」、ファシリテーター養成講座を受けた方でまだ実践に至らない方への「フォローアップ講座」、実践はしたがさらに学びたい方への「ステップアップ講座」にも力を入れていて、それぞれ年2回開講しています。このNPファシリテーターが伴走して実施するNPプログラムに参加された方は、一様に満足され前向きに変化されます。このプログラムに関心を持たれた方には、まず「入門講座」の受講をお勧めしたいと思います。

[ファシリテーターの思い]

芹澤文子さんは・・・

長野でNPトレーナーとしてもファシリテーター養成にあたり、互いに学びあうために「ながのトポスの会」を立ち上げ、会報を出すなど地道に活動されています。

NP J認定トレーナー 芹澤 文子

長野県上田市は四方を山々に囲まれた自然豊かなところ。山や川、田畑や果樹園があり、地域にはそこで培われ、つながる文化があります。そんな環境でありながら、子育ては、今の日本が直面している様々な課題を一緒に抱えます。むしろ、場所によっては、孤立しがちな子育てになりやすい条件が整います。子育て支援への想いを共にする上田市でのNPのファシリテーター養成講座受講者は38人になりました。

受講者は、「お母さんたちは誰もが力をもっている」ことにプログラムを通して実感し、プログラム以外にもそれぞれの場でファシリテーションを生かした取り組みをしています。

上田市は、年間7コースのNPプログラムを子育て支援事業として組んでいます。養成講座を受講した後「ながのトポスの会」では、尊重し合い共につくり上げる力を互いに学び交流しています。一人ひとりの想いが力となり、子どもたちが育ちゆくところに明るい兆しがひろがるのを感じます。

大内克夫さんは・・・

NPプログラムにかかわって 日本保育者支援協会 大内 克夫

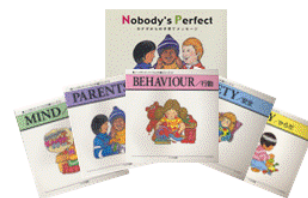
子育て支援研究センターが、正式のNPファシリテーター（FA）養成講座を実施したのは2004年7月のことでした。NPプログラムは、そのテキストの冒頭で「人は親として生まれてくるわけではありません」とうたい、誰もが親になるための学習が必要であることを宣言しています。目標とするのは親としての自覚を促し、考える親を育てるということ。カナダ政府が国を挙げて実施しているこのプログラムの企画・進行を担うのがNPファシリテーターです。教える人ではなく寄り添う人。伴走者と訳されています。

人を育むプログラムだと実感したのは、私自身がFA資格を取得したときのこと。FAとしてかかわる中で、自身の問題点も見えてきます。子育て支援者なら全員が学ぶべきものとも強く思ったのです。プログラムに参加した親の中からFAをめざす人も現れ、望ましい循環が生まれているのも嬉しいことです。

朝日カルチャーセンターに在職中から、子どもの健全な成長に関わる分野に関心があり、スクールソーシャルワーク、ファミリーソーシャルワークの企画などにも携わっていました。仕事人生の最後に、この「育みのプログラム」の普及にかかわることができたことは本当に幸運なことだったと感謝しています。

このプログラムが更に更に広がっていくことを心から願っています。

旧KRCでNPファシリテーター養成のシステムの基盤をつくるにあたり、ずっと裏方で支えてくださった方です。昨年3月に退職されてCFRCがそれを引き継ぎましたが、今後もNPファシリテーターとして活躍されることと思います。



↑ Nobody's Perfect
「からだ」
「安全」
「こころ」
「行動」
「親」
5冊セット

レインボウズの創設者スージーさんを悼む



レインボウ・ジャパン代表 櫃田 紋子

レインボウズ（Rainbows International）を創設して30年以上、家族に起こる喪失に苦しむ子どもたちへの支援活動に専念してこられたスージーさん（Suzy Yehl Marta）が、本年1月に急逝されました。心からの哀悼の意を表します。

2000年にスージーさんをお招きし、児童養護施設の子どもたちにレインボウ・プログラムを実施してきましたが、彼女は日本の小さなNPO団体である私たちの活動を温かく見守り続けてくださいました。そして、東日本大震災の時には直ぐにシルバーライニング・プログラム（自然災害版）を提供して応援してくださいました。

2012年度は2つのプログラムがそれぞれ、「タイガーマスク基金」、「東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金（第3期）」より助成金を受け、いっそう充実したサポートプログラムを実施することができました。そして昨秋から、訪日の際にスージーさんから奨められたプログラムの一つであるプリズム（ひとり親へのプログラム）も漸く実施の目途がつき準備を始めたところでした。日本での進捗状況を報告したいとおもっていた矢先、訃報に接し残念でなりません。

これから私たちがしなければならないことは、スージーさんの遺志を大切に活動を継続していくこと、そして一人でも多くの子どもたちが困難を乗り越え元気になることを願って一歩一歩前にすすめていくことだとおもっております。今後ともレインボузへのご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



上月美穂さんは・・・

アメリカで初めてディレクター・トレーニングを受け、今日までシカゴ本部とのコミュニケーターとして活躍されています。美穂さんがフェイスブックに載せた哀悼のことばを、彼女の了解のもとに転載いたします。

上月 美穂

先日、生まれて初めて、直接かかわりのある友人が亡くなりました。11月下旬まで普通にメールをやりとりしていたのに、そこからわずか1カ月半で彼女は突然逝ってしまいました。二度と彼女からメールの返事が来ない。そう思うと、涙が止まりません。私にとってせめてもの救いは、彼女が自宅で息子さんの腕の中で息を引き取ったことです。

彼女の名前は、Suzy Yehl Malta、アメリカで Best NPO の賞も取ったことのある、Rainbows International の創設者です。彼女は、自分が離婚した時に、両親の離婚を深く悲しみ、(ほとんどの子がそうするように) 自分をせめている自分の子どもを何とかしてその苦しみから救ってあげたいと思い、1983年に心理学やカウンセリングをベースに、プログラムを開発しました。現時点で49カ国に拠点があり、270万人の子どもたちがこのプログラムで親の離婚や死別からの深い悲しみから救われています。現在では、自然災害用のプログラムが開発され、米国カトリーナや9.11で実施され、現在私の友人たちが、東日本大震災で被害にあった子どもたちにプログラムを実施しています。実施は、Rainbows のトレーニングを受けた、臨床心理士、スクールカウンセラーなどが当たっています。

私は、たまたま英語がしゃべれたので、是非この Rainbows を日本に導入したいという、心優しい発達心理の専門家にどうしてもと頼まれ、日本人として初めてこの Rainbows のトレーニングをアメリカで受けました。企業でキャリアを積むことやお金を稼ぐのは楽しい大好きです、でも、どこかでボランティアをしていないと、自分はバランスがとれないと自覚していたので、かれこれ学生時代から15年ほど日本代表のコミュニケーターとして、シカゴの本部とのやりとりを担当していました。それは、スージーから一番信頼されていたから、ということもあるでしょう。

そんな彼女が突然なくなってしまった…。特に、東日本大震災に関しては、密にやり取りをし、一日も早いプログラムの実施のために、彼女は多大なサポートをしてくれました。実施も軌道にのり、東日本大震災復興支援財団から念願の助成金も取れたという報告をした矢先のできごとでした。今はまだ彼女のことを思い出すと涙が出てきてしまう。でも、きっと彼女は必要とされる限り、子どもたちに手を差し伸べ続けたのだと思う。私のやっていることは本当に微力だけれど、深い悲しみを背負った子どもたちがきちんと悲しみと向き合い乗り越え、元気を取り戻すことができるのなら、きっと続ける意義のあることなのでしょう。

彼女の死で思ったことは、大切な友人や家族とは、常に感謝の気持ちを伝え、悔いのない時を一緒に過ごす、ということ。これまでも実践してきたつもりだけど、これからも続けます。これを最後まで読んでくれた皆さん、どうもありがとう。体をご自愛し、身の回りの大切な人を本当に大切にしてください。私も、健康管理、気をつけます。

プチ里親レインボウ 2012年度の活動

越智 三佳

本年度は子山ホームと一宮学園の合計15人の小学4年生が、3人のファシリテーターさんとレインボウを実施しました。ファシリテーターの中には、仕事の休日に片道3時間もかけて通ってくださった方もいらっしゃいます。3月16日にセッション終了後のお楽しみ遠足を実施しましたが、今年度は初めて2施設合同で行い、東京ディズニーランドでお天気に恵まれた1日を14人の大人と楽しみました。夕食所では蕎麦打ちを拝見しました。好奇心一杯で、固唾を呑んで蕎麦打ち名人の手元を見つめ、物怖じせず質問する子ども達の健やかさに、人間の強さを感じないではいられませんでした。なお、今年度はタイガーマスク基金より助成金をいただきましたので、子どもたちが使う絵本等の教材を充実させることができました。

越智三佳さんは・・・

レインボузの公認ディレクターとして、2002年から児童養護施設の子どもたちのために活動されてきて、現在プチ里親レインボウ代表です。日本版テキスト・絵本等の翻訳も担当されています。

Feelings ↓
きもち テキスト



植野久美子さんは・・・

児童養護施設一宮学園のプチャ親
レインボウのファシリテーターとして
3年間ご活躍くださいました。

植野 久美子

3年前の3月に友人からお誘いを受けまして、できるかどうか迷いましたが、敢えて自分を鼓舞してファシリテーターを引き受けました。

1年目は男子4人、女子1人で、お互いに緊張しながら1回目が始まりました。体に触れる事を嫌い打ち解けるまでに時間がかかる子どももいましたが、何時の間にか全員が毎週レインボウの部屋に走って来てドアを思い切り開けて入ってくるようになりました。その姿がとても可愛くワクワクした事を思い出します。

七夕のお願い事を聞くと、「誰にも言わないでね、僕はお母さんに逢いたいんだ。」と耳元で言ってくれたこと、私が喧嘩を止めた事に怒った子ども同士が物凄い喧嘩になったりした事など、色々な事がありました。しかし、回数を重ねて行くうちに5人の子どもたちが仲良くなり、何時の間にかすてきな関係が生まれていました。

突然私に飛びついて来たり、様々な思いも寄らない状況が起こったりもしました。自分の昔の嫌な事をそっと話してくれた時には私自身の胸が痛みました。そんな時、「内緒ね。」と約束するとホッとした顔をして微笑んでいた事も忘れられません。

2年目、3年目の子ども達もそれぞれ特長がありましたが、1週間に一度、私に会いに階段を駆け上がって来る姿が忘れられません。毎回別れる時に思いっきり握手をしたぬくもりが今でも感じられるようです。レインボウの終了後に手紙をくれる子どももいますし、みんな今でも逢うと飛び付いて来てくれます。何よりも嬉しいのは全員がレインボウをととても懐かしく思っていてくれていることです。

家族の事情によりこの3月で私の活動は終了しますが、これからは担当した子どもたちの幸せを陰ながら見つめて行くと思っています。ファシリテーターを体験できて本当に良かったし、忘れられない経験をさせていただきまして感謝で一杯です。ありがとうございました。



「スマイルタイム」のその後

シルバーライニング プロジェクト代表 永田 陽子

【町としての取り組み】

おたより3月号で報告したように、2012年度の「スマイルタイム」も無事終了しました。

大熊町でのスマイルタイム導入にご尽力いただいた酒井和枝先生が、昨年12月に退職されました。先生は、学校やファシリテーター、本会との調整や子どもたちへの細やかな配慮をたくさんしてくださいました。これまで同様、夏目さんがスマイルタイムのコーディネーターを継続し、スクールソーシャルワーカーの高瀬先生と二瓶先生が学校との調整をすることになりました。

2013年2月と3月の2日間、修了後の振りかえりの会をしました。「スマイルタイム」の振りかえりと同時に、次年度計画の検討も兼ねています。ファシリテーターの方から出された忌憚のない意見や気づき、アイディアは現地の方ならではの視点がありました。それらを加味しながら、子どもたちの心を支えられるプログラムの内容を提供する役割をリソースセンターが担っています。被災当事者と専門性をもつ我々との協働によって、子どもたちへプログラムは届けられているのです。

現在の小学校

(旧河東三小学校・現大熊町立熊野小と大野小)
会津若松市日河東小学校校舎に、避難してきた大熊町立熊野小学校と大野小学校の二校が同居しています。
荒れていた学校を地域の方々がきれいに清掃し、大熊町の子どもたちを迎えたそうです。



一つの事業の成果が出るのに10年くらいは必要とのお考えの大熊町教育長 武内敏英先生のご理解のもと、平成25年度も「スマイルタイム」は5月からスタートしています。3月の振りかえりの会には、武内先生がわざわざ足をお運びいただき、ファシリテーターの方々へご挨拶をしてくれました。
下記はその時のお話です。



ファシリテーターの方々

2013年2月の振りかえりの会のメンバー。会場は大熊サロン(ゆっくりすっぺ)。



「スマイルタイム・ファシリテーターの皆様へ」

平成25年3月4日
大熊町教育委員会教育長
武内 敏英

みなさん こんにちは どうもご苦労様です。

[スマイルタイム大熊町]は、会津若松市に避難し学校を立ち上げるとともに始めました。先生方には、算数、国語の問題をひとつ解くよりは、子どもたちの心を大切にしてくださいとお願いし、それから丸2年、大熊町はその方向でやっております。

皆様もご承知のとおり、子どもたちは大変な思い、体験をし、色々な不安とか、悩み、淋しさ、悲しさを抱いております。学校に来ると、集団のなかでは皆、明るような表情をしますが、一人ひとり、やはり大変な課題、問題を抱えています。人間は、その心が、心配なこと、悲しいこと、辛いことがあると前に進みません。心の安定が「よし、やるぞ、頑張ろう」という前提条件になるわけです。でも、私たち日本人は、すぐに「ほら、勉強やれ」とか「何やってんだ、宿題は」と、ストレートにいきがちです。こういう時期だからこそ、私は心を大切に学校教育をしていきたいと思っております。

子ども家庭リソースセンターにお願いして、スマイルタイムを立ち上げることにいたしました。ファシリテーターとしてお手伝いを頂く方が必要だということで、研修会もやって頂きました。一昨年から2年間、お陰様でやってまいりました。子どもたちも、いろいろな不安、悲しみ、寂しさ、これらは誰かに話すことによって、相当癒されるわけです。それをみなさんに聴いていただく役割をして頂いております。ファシリテーターの方々には、大変ありがたく感謝しております。来年度も是非、これは継続していきたいと思っております。というのは、時間がたつと、すぐに保護者の皆さんも、学校の先生方も、「もう2年経ったのだから心のほうは大丈夫だろう、勉強だ」といひがちです。しかし、決してそうではありません。時間が経てば経つほど、自分の家、自分の学校、そして町を離れての生活は、ストレスもかさんできます。さらに心の教育が大事になってくるのではないかと考えております。

先日、ある本で読みましたら、これからは時間が経つとともに、大人も子どもも、はさみが開いたような状況になるといいます。上の刃のほうですと、前向きにどんどん進んでいく人、もう一方、下の刃のように、もう僕はダメなんだ、自分はダメなんだと、どんどん気持ちが落ち込んでいく人、この2つに分かれると。これが2年ぐらいい過ぎるとはっきり見えてくるということですので、心のケアはこれから勝負であると思っています。

今日もこうしてリソースセンターからおいで頂き、みなさんの研修をして頂いて、大変有難く、そして心強く思っております。平成25年度も、皆さんよろしくお願ひいたします。

2012年度は、小学2年生、3クラス、48名の子どもたちがスマイルタイムに参加しました。7回の1シリーズの実践には、約2ヶ月間かかります。その間に会津若松を離れる生徒がおり、その友だちを見送る子どもたちもいます。どちらの子も、再度喪失を経験します。また、この春、3人のファシリテーターの方が転居しました。転居する側も、残る側もファシリテーターも複雑な思いを抱えます。居住地が安定するまでの間、今後もこのような経験が繰り返されることを思うと複雑な気持ちです。転居された方が新しい地域（での生活）に一日でも早く慣れることを願っています。

スマイルタイムを実施したファシリテーターの方の感想をご紹介します。スマイルタイムは、大熊町で読み聞かせの活動をしていた方たちなどがファシリテーターとなって、震災半年後から実施されています。ファシリテーターは、SLファシリテーター研修を受講後活動しています。

[ファシリテーターの思い] (2012年9月時点)

何の知識も経験もない自分に何ができるのか、不安だけでスタートしたプログラムでしたが、仲間と共に試行錯誤しながら、先生方にアドバイスを頂きながら、これまで参加させて頂きました。スタートは正直自分のためでした。

何もすることがなくなり、知らない土地に日中一人になってしまった当初、仲間へ声をかけてもらって話を聞いた時に、自分も誰かの役に立てるかもしれないと思い、不安ながら嬉しかったです。

活動をしてみて、子ども達に思い出させることがよいことなのだろうかと初めは疑問でした。でも、大人でも聴いてくれる人が居れば話したい、お互い、皆一緒なんだとわかるとほっとする、それと一緒に感ずきました。胸に溜め込んだものを出させてあげる、その大切さを教えて頂き、自分も勉強になりました。これからも子ども達の為、自分の為、微力ながらお手伝いをしていきたいと思っております。(S)

[2012年の教材] 気持ちのすごろく すごろくで駒の止まった所の『気持ち』 について話し合う



「スマイルタイム」の様子



みんなつらかったり悲しかったり不安だったりしたと思います。でも「(集まりに) 出てきたからこそ、そういう気持ちがなくなってきた」とか「みんなもそういう気持ちだったんだ」等と聞くと、やって良かったと思います。最初の講座の時は、私にできることなのか、でも立ち止まっていられないという半々の気持ちでした。毎週2回ずつ集まっていると、信頼が深まり、なくてはならない仲間です。これからもメンバーが変わったりするかもしれませんが、続けていきたいと思っております。(N)

まだ始めたばかりで、無我夢中状態で、子ども達ひとり一人には、まだまだ気配りができていないでいます。ファシリテーターの方が上手に勧めてくれるので、何とかやっていますののだと感じます。私自身3人の子どもたちを育て（二人は成人しています）母親の立場としてしか接することができませんが、これから少しずつ子どもたちの言葉に耳を傾けることができればと思い、余り気負うことなく自然体で接していけたらと思っています。

子ども達には、元気をもらっています！まだまだ充実感までは得られませんが、身の丈にあった活動をしていきたいです。(H)

SLジャーナル ↓



現在、会津若松の小学校より、多くの子ども達がいわき市等へ転出しています。いわき等へ転校していった多くの子がバラバラになってしまっている様で、子どもたちや保護者が不安を抱えているのではと心配です。(H)

【エリカ基金】



皆さん、ご存知ですか？アメリカに住む小学生エリカさんが集めた寄金です。アメリカ人の父と日本人の母をもつエリカさんは、以前日本に住んでいました。東日本大震災を知った10歳のエリカさんは、大好きな日本への支援を思い立ち、近所の方や友だちに声をかけて寄付を募っただけでなく、学校でレモネードなどを販売して寄金を集め、その額50万円になりました。ETICを通して、2011年12月被災した小学生の支援プログラム『スマイルタイム』にも寄付していただきました。同じ年ごろの遠い外国からのエリカさんの思いは、福島県大熊町の子どもたちに元気を与えてくれました。

「自分にできることは？」と、震災直後誰もが思いました。エリカさんのようなこともできるのだと私自身が学ばされました。日本に思いを馳せ募金をした方、レモネードを買った人々、エリカさんをサポートして下さったご両親、多くの人々の温かい思いが結集された基金です。エリカさん、そして、日本に温かい思いを届けたいと協力して下さった方々に、心よりお礼を申し上げます。

インフォメーション

information] 子ども家庭リソースセンターからのお知らせ



2013年度スケジュール

1. NPプレプログラム オリエンテーション 年2回
2013/4/21(日) 終了、2013/10/20(日) 募集中、時間は両日ともに13:00～16:00 受講料2,000円
2. NPファシリテーター養成講座 年4回

(1)通常講座	第1期	2013/5/18(土),19(日),25(土),26(日)	伊志嶺 美津子	満員御礼
	第2期	2013/8/17(土),18(日),24(土),25(日)	永田 陽子	募集中
	第3期	2013/11/16(土),17(日),23(土),24(日)	永田 陽子	募集中
	第4期	2014/2/22(土),23(日),3/1(土),2(日)	伊志嶺 美津子	募集中

 (2)出張講座 2012年度は、山形県山形市、秋田県秋田市、佐賀県三養基郡、長野県上田市、などで4回開催
時間はすべて前半2日間は9:30～16:30、後半2日間は9:30～17:00 受講料70,000円(テキスト代2,000円別)
3. NPアフタープログラム 年2回
第1回2013/7/28(日) 募集中、第2回2014/1/19(日) 募集中
時間は両日ともに、フォローアップ研修は9:30～12:30、ステップアップ研修は13:30～16:30 受講料3,000円
4. トボスの会 年4回
2013/6/9(日)、9/8(日)、12/8(日)、2014/3/9(日) 13:00～16:00 年会費2,000円
トボスの会年会費につきましては、おたより、トボス通信にてお知らせしておりますが、年会費額や振込口座が、2012年度以降かわっておりますので、ご注意願います。ご入会は随時受け付けております。

寄付のお願い

被災児の心のサポートプログラム実施のために、ぬいぐるみや材料費、被災地へ出向く交通費等が必要です。皆さまからのご援助をお願いいたします。

<振り込み先> ゆうちょ銀行にある振り込み用紙から振り込みが可能です。

口座記号・番号 00130-4-651522 加入者名：NPO子ども家庭リソースセンター

～ ご質問、お問い合わせ等は、下記の事務局まで ～



NPO 法人 子ども家庭リソースセンター

- 所在地 〒115-0055 東京都北区赤羽西1-33-3 ライオンタワー907
- TEL/FAX 050-5202-7865
- E-mail info@kodomokatei.com
- URL http://kodomokatei.com/
- 交通機関 JR線「赤羽駅」下車、徒歩3分
地下鉄南北線「赤羽岩淵駅」下車、徒歩15分

○編集後記

大熊町の避難先である会津若松市に伺った2012年は、被災地と東京都の落差を強く感じた年でした。(N)

編集：NPO法人子ども家庭リソースセンター
発行：NPO法人子ども家庭リソースセンター
発行日：2013年5月10日